

授業科目名	保健科教育法特講		配当年次	1・2
担当教員			単位数	2
ディプロマポリシーとの関連性	② 武道、体育及びスポーツにおける高度で専門的な学術の理論及び応用力を有している。			
授業概要		授業計画(テーマ)		
<p>学習指導要領の改訂が近々に迫っている。今回の改定では、アクティブラーニングが強調され、保健科教育の在り方や授業の進め方にも大きく影響すると指摘されている。</p> <p>そこで本授業では、アクティブラーニングを念頭に置きつつ、学習指導要領の内容や方向性について、主として履修生が主体的に領域別プレゼンテーションを展開する授業形態を試みたい。さらに、学外授業として、現職教職員の各種研修会等にも参加し、より実践的な保健科教育に踏み込みたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健の新しい方向についての検証 2. 小学校:「毎日の生活と健康、育ちゆくからだわたし」についての検証 3. 小学校:「心の健康、けがの防止、病気の予防」についての検証 4. 中学校:「心身の機能の発達と心の健康」についての検証 5. 中学校:「健康と環境、障害の防止」についての検証 6. 中学校:「健康な生活と疾病の予防」についての検証 7. 高等学校:「現代社会と健康」についての検証 8. 高等学校:「生涯を通じる健康」についての検証 9. 高等学校:「社会生活と健康」についての検証 10. 11. 12. 学外授業 学外で開催されている現職教職員対象の各種研修会に参加 13. 14. 15. まとめと評価 		
到達目標				
<p>・学習指導要領が求めている保健科教育の方向性について説明することができ、さらに、それらを具体的な形で示すことができる。</p>				
受講・学習上のアドバイス		評価方法		
<p>・主として、保健体育科教員を目指す者のための授業とするが、体育領域にとどまらず、広い視野への興味関心を持ちつつ取り組んでほしい。</p> <p>・他科目の「武道・スポーツマネジメント演習Ⅰ・Ⅱ」では実際の教育現場における高度な教育機会や関連する活動の企画運営等を体験することができるので、併せての履修が望まれる。</p> <p>・事前学習(2h)⇒「保健体育学習指導要領(中学校・高等学校)」の精読</p> <p>・事後学習(2h)⇒「保健体育学習指導要領解説(中学校・高等学校)」の精読</p>		評価項目	割合	評価基準等
		試験	0%	
		レポート	80%	プレゼンテーション
		平常点	20%	毎授業の中での取り組み姿勢(積極性、発言、質疑応答)
教科書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考)		参考書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考)		
必要に応じて資料を配布する。		教師を目指す学生必携 保健体育科教育法 杉山重利ら編、大修館書店、978-4-469-26692-4		
その他				
授業形態:単独				